

日露青年交流センター
2018年度 日本語教師派遣事業
帰国報告書



ハバロフスク
太平洋国立大学
田中亜紀子

1. 年間業務日程

2018年

- 9月 1年生～3年生前期授業開始
東洋言語歴史学部1年生入学イベント
- 10月 4年生前期授業開始
極東・東シベリア日本語弁論大会、日本語教師セミナー（5～6日）
モスクワ国際学生日本語弁論大会（26日）
- 11月 夜間オープンキャンパス
- 12月 日本語能力試験（2日）、東洋言語歴史学部学術会議（10日）
前期授業終了（29日）

2019年

- 1月 年始休暇（～4日）、前期学期末試験
- 2月 冬期休暇（～8日）
後期授業開始
Study in Japan 留学フェア（8～9日）
- 3月 オープンキャンパス
- 4月 MANABI 外語学院主催日本語弁論大会（26日）
- 5月 ハバロフスク日本語弁論大会（7日）
アートキャンパス（アムール川沿いでのオープンキャンパス）
ハバロフスク日本語カラオケ大会（ハバロフスク経済法律大学主催）
- 6月 後期授業終了（15日）、後期学期末試験

2. 赴任校概要

大学：太平洋国立大学

Тихоокеанский государственный университет (ТОГУ)

Pacific National University (PNU)

学長：イヴァンチェンコ・セルゲイ・ニコラエヴィチ

Иванченко Сергей Николаевич / Ivanchenko Sergei Nikolaevich

学部：東洋言語歴史学部

Факультет востоковедения и истории / Faculty of Oriental Studies and History

学科：東洋言語学科

Кафедра «Восточные языки» / Department of Eastern Languages

所在地：Россия, 680000, г.Хабаровск, Студенческий переулоч, 36

36, Pereulok Studencheskiy, Khabarovsk, 680000, Russia

連絡先：TEL/FAX: +7(4212)72-07-12（国際部）

TEL:+7(4212)42-05-64（学部長室）

国際部担当者（連絡先）：

センチェンコ・アナスタシア・エヴゲーニヴナ

Сенченко Анастасия Евгеньевна / Senchenko Anastasia Evgenievna

(TEL : +7(4212)72-07-12)

※ 2015年に極東国立人文大学が太平洋国立大学に統合

大学本部は北部キャンパスに、旧極東国立人文大学側の学部である東洋言語歴史学部はセンターキャンパス 6号館にある。センターキャンパスは Педагогический Институт ТОГУ (ПИ ТОГУ)とも呼ばれる。

日本語コース設置年： 1991年

日本語コース責任者（連絡先）：

シャラモワ・オリガ・オリエゴヴナ（東洋言語歴史学部学部長）

Шаламова Ольга Олеговна / Shalamova Olga Olegovna

(TEL : +7(4212) 42-05-64)

日本語コースカリキュラム：

太平洋国立大学東洋言語歴史学部東洋言語学科では通訳・翻訳家養成を目的に、ハバロフスクで唯一、日本語を主専攻として教えている。東洋言語学科では日本語の他に、韓国語、中国語専攻もある。日本語専攻の学生は4年間で日本語文法、会話、漢字学概論、語彙論、通訳・翻訳論、言語学、音声学、日本史、極東史、英語、ラテン語、哲学、体育などを受講する。

学部長より、日本人教師には会話を中心にした授業をしてほしいが、会話に限らずどんな授業をしてもいいと指示を受けた。

日本語履修学生数および日本語レベル：

	前期	後期	日本語レベル (2019年6月現在)
1年生 ЛПВЯяа(аб)-83	11	10	初級(N5-4)
2年生 ЛПВЯяа(аб)-73	14	12	初中級(N4-N3)
3年生 ЛПВЯяа(аб)-63	8	7	中級(N3)
4年生 ЛПВЯяа(аб)-53	7	9	中上級(N2)
合計	40	38	

日本語教師数：ロシア人教師6名 日本人教師1名（報告者）

日本語履修学生の卒業後の進路：

大学院進学、一般企業、留学等。日本関連企業、当地領事館への就職は少ない。

3. 赴任者の日本語教育業務

(1) 学年・年間のシラバス

・1年生 ЛПВЯяа(аб)-83

使用教材	『日本語初歩』(1課～26課)、『つなぐにほんご初級1』、自作教材
コマ数	90分×1コマ/週
活動	<p>前期、後期とも、ロシア人教師が『日本語初歩』を主教材に文法を担当。報告者はその進度に合わせ会話練習、発音練習などを行う。『日本語初歩』の例文に時代を感じさせるものが少なくないため、報告者は今の時代に合った例文を多く提示し、ロールプレイを通して若者らしい会話の定着に努めた。</p> <p>前期開始当初はサイレントウェイで発音練習、ひらがなとカタカナを導入。後期からは毎週宿題として交換日記を課し、既習文型を使って身の回りのことを書くことで、語彙力の向上や文型の定着を、また報告者の日記を読むことで読解力の向上をはかった。日記の中でよく見られた文法の間違ひについてはクラス内で共有。同時にワードハンティングも宿題とし、本やアニメ、インターネットで見つけた言葉の意味を調べ、短文作成も課した。3月からはテーマを決めて短いスピーチを書き、暗唱して発表した。スピーチのテーマは『私のおすすめ』『私の好きな町』『私の大学』の3つ。</p>
評価方法	平常点(出席・宿題提出)、小テスト、スピーチテスト、学期末、学年末試験(筆記のみ)
所見	<p>入学時、日本語学習歴のある者が3名ほどいたが、授業の進行に問題が出るようなレベル差ではなかった。中国からの留学生もいる。ロールプレイやゲーム形式の練習、交換日記では既習文型を使って自分の日常について上手に話したり書いたりしているが、それ以外の場(学内クラブや授業前後の雑談の場等)になるとまだ緊張するようで、ごく簡単な文型のみを使った短文の会話になってしまうことが多い。</p> <p>活気のあるクラスで、MANABI 外語学院の弁論大会には5名が出場したり、学内イベントにも積極的に参加している。</p>

・2年生 ЛПВЯяа(аб)-73

使用教材	『ペアで覚えるいろいろなことば』、『ゼットイ合格!日本語能力試験完全模試(以下、完全模試)N4』、『VOICES FROM JAPAN』
コマ数	90分×1コマ/週
活動	前期、後期とも『ペアで覚えるいろいろなことば』を使い、日常生活でよく使われる連語を練習。各課が終わったあとに必ず露文和訳の小テ

	<p>トを行った。前期は日本語能力試験にそなえ、N4 の聴解練習も取り入れた。1 年生の時に始めた交換日記も継続して実施。前期は日々の出来事を書いたが、後期では日記形式をやめ、『VOICES FROM JAPAN』のテキストを毎週読み、テーマに関する質問に答えながら、自分の意見を書く形式に変更。授業内で各学生がその意見を発表した。</p> <p>6 月には関西大学でロシア語を勉強している日本人学生とスカイプで交流。日本語やロシア語での会話や「ロシア語の勉強のためにおすすめの本」というテーマでプレゼンを行った。この交流の様子は、関西大学の公式 HP で「太平洋国立大学との合同授業」として紹介された。</p> <p>関大 URL : http://www.kansai-u.ac.jp/mt/archives/2019/06/post_4392.html</p>
評価方法	平常点 (出席・宿題提出)、露文和訳の小テスト、学期末、学年末試験 (筆記のみ)
所見	<p>報告者の授業で導入した表現だけでなく、ロシア人教師の授業で習った単語や文型を使って話したり、日記の中で書いたりしようという積極的な姿勢が見られる。4 年生で N2 の合格を目指している学生が多く、向学心がある。特に、交換日記を欠かさず書いていた学生にはこの 1 年で作文と会話能力の大きな向上が見られた。</p> <p>しかし 1 年次と比べ、N4 不合格から N3 合格までとクラス内にレベル差があらわれるようになった。</p>

・ 3 年生 ЛПВЯяа(а6)-63

使用教材	『日本語能力試験 N3 直前対策ドリル&模試 文字・語彙・文法』、『完全模試 N3』、『ロシア語使える文型 80』、自作教材
コマ数	90 分×1 コマ/週
活動	<p>前期は日本語能力試験対策のために、N3 文法や聴解の練習問題を行った。その他、ウラル連邦大学の学生が SNS に書いた記事を読み、報告者の質問に答えたり、自分の意見を述べる練習もした。後期は日本人のためのロシア語教材を使い、文型ごとに日常会話の和露訳と露和訳に取り組み、その文型を使った会話練習や、日本のバラエティ番組やアニメ、ニュースを字幕なしで見て自分の意見を言い合う活動を行った。</p>
評価方法	平常点 (出席)、学期末、学年末試験 (筆記のみ)
所見	<p>会話能力は低くないクラスなので、会話表現の幅をより広げられるよう N3 対策の文法や聴解問題、SNS の記事をバランスよく授業に取り入れられるよう試みた。しかし、問題を解いている時やテキストについて意見を述べる時は集中していても、授業が終わればそれきりで自主学習はせず、翌週には前週に学んだ文型を覚えていないという場面がたびたび</p>

	見られた。積極的に発言はするが、初級文型を使ってばかりの会話になってしまい、報告者の力不足を感じた。それでも N3 を受験した 4 名全員が合格したので少し安心した。
--	---

・ 4 年生 ЛПВЯяа(аб)-53

使用教材	『新完全マスター読解 N2』、『VOICES FROM JAPAN』、1・2 年生の交換日記
コマ数	90 分×1 コマ/週
活動	前期は授業の前半に日本語能力試験対策のために N2 読解の練習問題に取り組み、後半は『VOICES FROM JAPAN』を使用し、教材用に録音されたものとは違う日本人の生のインタビューを聞く練習と、日本事情を理解しながらロシア事情と比較し自分の意見を述べる練習をした。 後期も前期同様『VOICES FROM JAPAN』を使用。その他、1 年生と 2 年生が書いた交換日記の中でよく見られた誤用について、原因などを分析し、項目ごとに原稿を書き、小さな本にまとめた。
評価方法	前期の学期末に試験を行ったが、最終的な評価はロシア人教師に一任されていたため、報告者の評価は学生の最終成績に影響しなかった。 後期は報告者とロシア人教師の評価を合わせて成績を出すことになったので、平常点（出席、本の原稿書き）と学年末試験の成績で評価。
所見	昨年同様向上心の高いクラスだが、4 年生になり疲れが出始めたようで、出席率が悪くなる者もいた。しかし日本語運用能力は高く、期末の筆記試験でも語彙の説明や自分の意見をしっかりと書くことができていた。 10 月にモスクワで行われた弁論大会でこのクラスから優勝者が出た。この学生は日本の協定大学の修士課程への進学を望んでいる。

(2) 個人授業

- ・ 3 年生 JLPT N3 対策 90 分×週 2 コマ

本人からの申し出で個人指導。グループ授業ではあまり集中できないタイプ。語彙や読解を中心に練習問題を解いた。12 月に N3 合格。

- ・ 大学院生（兼国際部職員） JLPT N2 対策 90 分×週 1 コマ

12 月の JLPT 終了後、N2 合格を目指して個人授業を開始。読解と文法を中心に授業を行った。

(3) 課外指導

- ・ JLPT N4 対策 90 分×週 1 コマ 受講生 9 名（合格：6 名、不合格：3 名）
- ・ JLPT N3 対策 90 分×週 3 コマ 受講生 5 名（全員合格）

- ・ JLPT N2 対策 90 分×週 1 コマ 受講生 2 名（合格：1 名、不合格：1 名）
- ・ 極東・東シベリア日本語弁論大会発音指導と運営サポート
- ・ ハバロフスク日本語弁論大会
太平洋国立大学の学生計 4 名のスピーチ原稿のチェックと運営サポート
- ・ サンクトペテルブルグ日本語弁論大会書類審査

（4）反省点と今後の展望

昨年度、「文法や類語に関する質問が多く、毎回それらの質問にうまく答えることができず、自分の勉強不足を感じた。」とここに書いたが、今年度は JLPT 対策講座で昨年度の反省を生かして授業を行えたと思う。また 4 年生とともに日本語初中級者の誤用について、ロシア語の影響による翻訳の間違いと文法的な間違いの面から分析し、それを本にまとめられたことはいい刺激にもなった。

2019 年 9 月から、カリキュラムが変更されると聞いている。現在、1 年生の日本語の授業は合計で週 7 コマ行われているが、9 月からは週 1 コマしか開講されないとのこと。今後の日露派遣教師の担当クラスやコマ数は、報告者の場合と大幅に変更されるかもしれない。また、学科が現在の学部棟から他の棟へ引っ越しすることも予定されているため、後任教師に託した引き継ぎ書の内容と今後の日本語教育環境が全く異なることになる可能性が高い。

4. その他の業務

- ・ 学内日本語会話クラブ「ミニッポン」開催（毎週木曜日または金曜日）
和の小物作り（折り紙で御守作り、藍染、折鶴ピアス）、ゆかた着付講座
日本のファッション雑誌を読む、アニメ鑑賞、浦島太郎の続きを考える
皇族の結婚式、着物の柄とデザイン、日本の食べ物などの紹介
新入生歓迎会、忘年会、節分とひなまつり等イベントの実施
- ・ 日本語能力試験（申込受付係－9 月、試験監督－12 月）
- ・ 今年の漢字 2018 に参加（各地の派遣教師と学生による動画）
- ・ ハバロフスク日本語教師会（弁論大会前の不定期開催）
- ・ 東洋言語学科職員ミーティング（月に 1 度）
- ・ オープンキャンパスの手伝い（年に 2～3 度）
- ・ 学術論文の執筆
- ・ 留学生試験の推薦状の準備
- ・ ハバロフスク韓国語、中国語オリンピック観覧

5. 青年交流

- ・ ハバロフスク日本センター主催・日本語会話クラブへの不定期参加

- ・日露友好シベリア横断列車（ロシアにおける日本年イベント）
- ・むさしの・多摩・ハバロフスク協会との交流会（9月、4月）
- ・関西大学ロシア語履修者とのスカイプ交流会（6月）
- ・JGC エバーグリーン社 OB 訪問
- ・コルフォフスキ村「村の日」イベント（元シベリア抑留者・田中猛さんのミニコンサートのお手伝い、9月）
- ・コルフォフスキ村「敬老の日」イベント（元シベリア抑留者・田中猛さんのミニコンサートのお手伝い、10月）
- ・コルフォフスキ村「日本の日」イベント（折り紙のマスターコース担当、3月）
- ・ニコラエフスク・ナ・アムーレにて日本文化紹介、浴衣着付、折り紙で御守作り、書道）日本語学習者との交流会（2月）

6. 任地の生活事情

(1) 電気・水・温水の供給状況

- ・電気 停電は無く、安定している。

- ・水

4月に寮の報告者の部屋が1日半断水。他の部屋は水があったので、トイレ用の水などは共用キッチンから汲んで過ごした。洗濯室が1週間ほど断水したこともあり、その際には洗濯機が使用できなかったため、部屋で手洗いをした。水はきれいではないので、飲料用にはミネラルウォーターを購入し、米をとぐための水は浄水器を通した水を使うようにしていた。

- ・温水

お湯は中水なので飲用できない。集中暖房が入る前と切れた後（9月と5月）、設備点検のため温水の供給が5日～1週間ほど停止。お湯が止まることを特に寮内で事前告知されるわけではないので、自分でネットニュースを見るなどして、供給停止時期を確認した。

(2) 生活必需品

必要な日用品、食料品は問題なく手に入る。

(3) 衣・食・住居

- ・衣

真冬のコート、靴は現地調達が良い。集中暖房の入る前の9月後半～10月中旬は室内が冷えるため、暖かく着込んだ。しかし集中暖房が入った後も、大学の

暖房はまったくきかず、教室が恐ろしく冷えたため、真冬は授業中もダウンコートを着ていた。12月は気温が-30℃まで下がる。風が強く、体感気温はさらに低くなる。帽子、マフラー、手袋は必須。3月に入ると暖かい日も多くなるが、雨や雪が降ると冷え、6月でもウールの薄手のコートを着ることがあった。

・食

スーパー、市場にはロシア産や中国産など輸入品の野菜、食品などが並んでおり、必要な物は揃う。日本の食品も至る所で売られている。日露合弁企業・JGCエバーグリーン社によって作られた温室栽培による野菜は、おいしく安全。市内中心部にはレストラン、カフェが多く、大学近くには大学関係者に割引のきく食堂もある。

・住居

校舎から徒歩5分の場所にある寮に滞在。大学が寮費を全額負担する学生フロアの部屋ではなく、短期滞在者のための宿泊フロアの個室(トイレ・シャワー付)を借りた。キッチンが共用。家賃は1日450ルーブルで、そのうち150ルーブルを大学が負担、差額300ルーブルを報告者が負担した。毎月9000ルーブルの自己負担は大きいですが、中国や韓国からの留学生と同じフロアにある大学全額負担の部屋に住むより静かに過ごせて良い。だいたい1週間に1度、寮母が部屋の清掃に入る。部屋は6階だが、報告者の部屋の近くにあるエレベーターは動いていない。今年度は火災報知機の誤作動が多数発生(主に深夜)。

(4) 交通の便

大学、寮の近くにバス停が2つあり、市内中心部から郊外へ行くバスやマルシェルートカ、トロリーバスが多く走っている。運賃は運行会社によって異なるが23~30ルーブル。プリペイド式専用カードや一部銀行カードでも支払いが可能。

タクシーは寮から空港まで250ルーブル前後で、気軽に利用できる運賃である。所要時間は約20分。

(5) 物価

野菜、パン、米、油はそう高くない。肉、卵は日本より少し安いぐらい。日用品は日本と同じような値段。カフェやレストランは日本と同等か高い。

(6) 治安

大学も寮も町の中心部に位置しているが、夜遅くに一人で出歩かないようにしていたので危険を感じるようなことは無かった。バスの中でスマートホンを眺め

ていても、盗難の心配はなかった。酔っ払いや浮浪者を見かけることもなかった。

7. その他

・日本人会

現在の会長は日本センターの石畠所長。2018年より会費徴収制となった（年間500ルーブル）。しかし、会員の総会などは行われない。毎年9月に日本人墓地清掃・墓参会と食事会、7月にはバーベキュー大会が行われる。

8. 終わりに

太平洋国立大学は主にアジアの高等教育機関と多く提携するなど、国際交流に精力的である。日本の新潟県立大学、神戸市外国語大学、関西大学、南山大学などいくつかの大学とも協定を結んでいる。長期交換留学のプログラムの募集については、昨年度の1校から今年度は8校に増え、7名の日本語専攻の学生が応募した。今後ますます活発な交流を期待したい。

3年目はハバロフスク近郊のコルフォフスキ村や、ニコラエフスク・ナ・アムーレなどで新しい出会いがあり、青年交流活動の幅も広がり、今まで以上に楽しく充実した一年を過ごすことができた。これはいつも報告者の提案を尊重し、活動を支えてくださった太平洋国立大学の同僚の先生方をはじめ、在ハバロフスク日本国総領事館、日露青年交流センターの皆様、お互いに励ましあった各地の日露派遣教師、その他お世話になった皆様のおかげである。この3年間、貴重な経験を積む機会を与えてくださったすべての皆様に心より御礼申し上げたい。